

第5章

女性関連施設の立場から 高校生等のキャリア形成を支援する取組

松下 光恵

1 はじめに

男女共同参画基本法が2001年1月に施行されて20年になり、これまでさまざまな取組が進められ法制度の整備も進んできたが、依然として課題は多い。長年にわたり形成された固定的な性別役割分担意識や性差に関する固定観念や偏見はなかなかなくなる。男女共同参画社会実現のためには、日本国憲法や教育基本法にも掲げられている男女平等について、とりわけ若い世代の意識や行動を変えていく取組が重要である。本章では、筆者が代表理事を務める「(特非) 男女共同参画フォーラムしずおか」が指定管理者として運営する静岡市女性会館（以下、女性会館）がこれまで取り組んできた高校生や大学生等、若い世代を対象とした取組を中心に紹介する。

女性会館は、1992年に中央公民館（現・葵生涯学習センター）との複合施設として開館した。女性会館周辺は静岡県庁、静岡市役所をはじめとする行政と商業の高度集積地に隣接し、公立、私立の小中高校も多い文教地区となっている。

2003年、静岡市と清水市が合併し新「静岡市」が発足、企画部に男女共同参画課（現・市民局）が設置された。同年4月には「静岡市男女共同参画推進条例」が施行され「静岡市男女共同参画行動計画」が策定された（現在、

II 実践の展開

「第3次静岡市男女共同参画行動計画（2015～2022年）」の基本施策に基づいて、女性会館の各種事業が行われている。

「静岡市男女共同参画推進条例」が施行された2003年には地方自治法の改正があり、公の施設はそれまでの管理委託制度に代わって、市が直接管理を行わず外部に管理を任せる指定管理者制度導入が検討されることとなった。2004年4月には、市主催で指定管理者制度導入を見据えた勉強会「女性会館企画運営研究会」（全6回）が始まった。研究会には行政職員や一般市民、さまざまな女性団体とともに1995年から行われている静岡市主催の女性の人材育成講座「アイセル女性カレッジ」の修了生も参加していた。2004年11月には、筆者を含む「アイセル女性カレッジ」1期から6期までの修了生有志8人が自主勉強会を始め、翌年3月には指定管理者制度導入を視野に入れ「(特非)男女共同参画フォーラムしずおか」（以下、フォーラムしずおか）を設立した。2005年、女性会館の業務の一部である「講座開設及び図書貸出等業務委託」に応募し、フォーラムしずおかが選定された。

2007年には女性会館に指定管理者制度が導入されることとなり、2年間の業務委託で経験を積んだフォーラムしずおかが審査会を経て1期5年間の指定管理者となった。現在、その3期目半ばで、指定管理者となって13年が経つ。

2 女性会館の講座・研修事業の展開

指定管理者制度導入当初、フォーラムしずおかは、女性会館のユーザーがサービスの提供者となったことで市内外から注目された。明治大学公共政策大学院の北大路信郷教授（現・明治大学名誉教授）は、指定管理者制度の勉強会で「行政の仕事は公平公正が原則だが、今、皆さんに任せようとしているのは、不公平に見えても社会全体として効果の出るやり方を期待しているということ。公平さを重んじるあまり何の成果も出ないやり方でなく、戦略的に成果を出せるやり方にぜひ挑戦してほしい」と私たちを励まされた。

振り返ると、1992年の開館当初は主婦層の来館が多く、その受講動機は自己実現を求めるケースが大半だった。10余年を経てフォーラムしずおかが指定管理者となった2007年頃には女性の大学進学率も4割を超え、働く女性も多くなっていた。指定管理者となった当初は職員の当事者視点を生かして事業展開をしていたが、受講者層の変容を意識して2008年度から女性労働の研究者である居城舜子理事に代表理事就任を要請。従来の意識啓発型事業から課題解決型事業に大きく方針転換することとなった。

館長を務めていた筆者も含め、職員は「男女共同参画基本計画」や『男女共同参画白書』等を読んで、広く国の施策の動向にも目を向けるようになった。静岡市の統計情報や実施した事業の参加者アンケートの結果も集積して、地域の女性のニーズ把握にも努めた。データから社会の変化を読み取ること、静岡の女性たちの半歩先のニーズをつかむことを意識して事業を企画するようになった。特に、「困難を抱えた女性」「働く女性」「若い世代」の来館を意識した事業に取り組んだ。

「困難を抱えた女性」を対象とした事業では、経済的困難を抱えた女性、若年無業女性、プレシングルマザー、シングルマザー、不安定な雇用形態で働く女性、DVに悩む女性、健康問題に悩む女性等の困難を少しでも解消したいと取り組んだ。しかし、講座だけでの解決は難しく、個別相談やピアサポートグループ支援など居場所づくりも必要であり、福祉分野を中心に地域にある多様な機関や支援団体との連携・協力が欠かせないことに気づいた。一方で、困難を抱えた時に女性会館があることを思い出してもらうためには、ふだんから一般の人が参加しやすい啓発事業も行っていくことが必要だと改めてわかった。

「働く女性」を対象とした事業についても、試行錯誤しながら取り組んだ。2014年度には地元新聞の記者だった川村美智理事を館長に迎え、内閣府の「地域における女性活躍推進モデル事業」に採択されたメンターバンク構築事業に取り組んだ。「Jo-Shizuメンターバンク」と名付けた事業は、女性会館のHPに専用サイトを設け、会員登録をすると地元静岡で活躍する女性の先輩

II 実践の展開

たちのプロフィールを閲覧でき、相談相手を選ぶことができる。また、複数のメンターに実際に会って、少人数でテーマに沿った話を聞くことができる「メンターカフェ」も開催するようになった。

女性会館事業のメインとなる「アイセル女性カレッジ」も2016年度からこれまでの社会参加、再就職を目指す内容を「働く女性」を対象に変え、就労継続支援、管理職へのステップアップ支援へと移行。女性の置かれた状況、ニーズを見ながら、テーマやカリキュラムを見直して続けている。

受講者の中には教員も複数おり、「多様な職種の人との交流で視野が広がった」「職場では男女平等が当たり前だと思っていたが、実は無意識の偏見が多いことに気づいた」と感想を寄せた。自身の担当する教科や生徒への対応等についてもジェンダーの視点で見直し、受講後も女性会館と生徒や学校とのつなぎ役となっている。女性会館側もコロナ禍で行えなくなった生徒の学習発表会を女性会館での展示発表に切り替えて市民に提供するなど、協力の要請があれば快く応えている。

3 これまでの若い世代を対象とした取組

「若い世代」については、フォーラムしずおかが指定管理者になった当初から積極的にアウトリーチに取り組んでいる。学校から求められるテーマは「デートDV」についての要望が多く、市内にある大学や将来DV被害者に接する可能性が高いと考え看護専門学校にも出向いた。受講者アンケートには、大学生、専門学校生を問わず、もっと早い年齢から「デートDV」について知りたかったとの感想が多く、2014年度からは高校への出前講座を行うようになった。当初は「寝た子を起こすのでないか」と心配する高校もあり、養護教諭を通じてやっと了解が得られたこともあったが、1学年一緒に、全校一緒に希望する高校が増えていった。その高校の実情や要望に沿った内容の提供を心掛けており、男子校からの依頼も受けている。

現在はデートDVだけでなく、男女共同参画の視点でのライフキャリアデ

ザインや複数のロールモデルをコーディネートして紹介する等の依頼も増えている。

その他、2016年度からは静岡県内の大学教員の協力を得て、男女共同参画について書かれた学生の卒論発表会も女性会館を会場にして横断的に行っている。世界的な女性への暴力防止キャンペーンダンス「Break the Chain」を市民と踊る事業では、2017年に静岡大学ダンス部の協力を得たことをきっかけに、翌年からダンスフェスに発展させ、市内の中学、高校、大学からも参加を得て、大きなイベントになっている。会場では名刺大の「女の子のお守りカード」を配布し、デートDV防止の啓発とともに相談できる場所を知ってもらう工夫もしている。また、中高生の職場体験、大学生のインターンシップは毎年積極的に受け入れ、女性会館側も若い世代の意見や提案を聞き取る貴重な機会としている。

また、2012年度からは学習支援を行いたいという大学生の任意団体「静岡学習支援ネットワーク」への会場提供が始まり、大学生や中学生が毎週女性会館に来館するようになった。3年後、団体は一般社団法人化して、女性会館を含む市内3ヵ所で静岡市の学習支援事業を受託するようになり、現在も学生間で事業が引き継がれ、その活動は9年目となっている。女性会館では大学生だけでなく学習支援を受けている中・高校生、その保護者にも役立つ情報の提供を心掛けている。一般社団法人化の際、筆者は理事となって、大学生からの相談や活動発表会、研修合宿などに関わり活動を見守っているが、その活動から学ぶことも多い。

例えば、社会課題解決に目を向ける大学生が少なくないこと、就職活動の際にも収入より働きがいや社会貢献を重視する若い世代が増えていることを実感している。フォーラムしずおかが静岡市生涯学習推進課の委託事業「人材養成塾・地域デザインカレッジ」に応募する際、そうした社会課題解決や社会的起業に関心を持つ若い世代を対象に実践型のプログラムを提案した。企画が選ばれ受講者を募ると、実際に大学生や20・30代から多くの申し込みがあった。「まちみがきプロジェクト」と名付けた講座は、女性会館を会

場にジェンダーの視点も盛り込み、男女共同参画のすそ野を広げることに努めた。4年目からは地域課題に取り組むシニアコースも任され、並行させて世代間交流も図り実施した。6年間で受託は終了したが、その後も修了生らが始めた社会や地域の課題解決に取り組む団体と連携・協力関係を築いている。とりわけ生きづらさを抱える高校生の居場所づくりや高校生向けキャリア教育に取り組む「NPO法人しずおか共育ネット」、静岡大学と協働でジェンダーとキャリア形成を考える授業を開発した「シングルペアレント101」など、若い世代に向けた活動に力を注ぐ団体との連携は欠かせない。

4 静岡市における若年女性の現状

静岡市は東京・名古屋のほぼ中間に位置し、いずれも新幹線で1時間圏内であり、東京、名古屋の大学に進学する高校生も多い。静岡に戻らずそのまま就職するケースも多く、その傾向は男性より女性に高く、若年女性の人口流失を止めることが静岡市の喫緊の課題となっている。そのため、静岡市では県外大学等の通学に係る費用のうち通学定期の新幹線区間に要する経費の一部を貸与する事業なども行っている。若年女性流出の原因の1つとして、圧倒的に中小零細企業の多い産業構造が挙げられる。女性が大学を出て地元で就職しても男性の補助的な仕事しか与えられないことが多く、やる気のある女性ほど首都圏に流失しているとも言われている。

女性会館で行っている就職・転職相談や若年者向けのライフプランニング講座でも「将来が見通せず不安」「自分らしい生き方を探している」という20・30代の女性が多く見受けられる。また、女性会館でインターンシップを体験する学生に就職へのイメージを聞き取りすると、両親や知人など身近な人の限られた情報に影響を受けていることがうかがわれる。自らの将来を主体的に捉える力が弱く、職業や働き方、生き方を選び取る選択肢が少ないという印象を受ける。フォーラムしずおかの理事が地域の教職員組合の研修会に招かれた際に、教員からも静岡の学生は全体的におとなしく自己肯定感

が乏しいと聞くことも多い。

前述のメンターバンク事業の構築時（2014年度）のターゲットは、実は女子高校生だった。進路選択をする前の女子高校生に、多くの価値観や生き方のモデルに触れてもらい、自らの人生を考える機会を女性会館が提供する意義は大きいと考えていた。ロールモデルは自分の母親か身近な女性に限られ将来の選択肢が少ない現状を何とかしたいと、市内の複数の高校にヒアリングに出掛けた。しかし、当時は目の前の進学を優先したい学校から「生徒を混乱させるだけでは」と消極的な声も少なくなく、大学生から上の世代を対象を切り替えた経緯がある。現在では「女性活躍推進法」の後押しもあり、高校や大学にもメンター派遣というかたちで身近なロールモデルに出会う機会を提供できるようになっている。

5 高校生のキャリア形成を支援する

5節では、女性会館が現在、授業として高校生のキャリア支援に取り組んでいるケースを紹介する。

2015年、女性会館の近隣にある常葉大学附属常葉高等学校（以下、常葉高校）の教諭2人が来館した。常葉高校は、学校法人常葉大学グループに属し、戦後の日本の復興を女子教育に託した創業者・木宮泰彦氏によって静岡女子高等学院として開学した女子校である。現在、学校法人常葉大学グループは、静岡県内に幼稚園から大学院まで多くの学校をもつ。静岡市内には常葉大学（静岡草薙キャンパス、静岡瀬名キャンパス、静岡水落キャンパス）、常葉大学短期大学部があり、そのスケールメリットを生かし、人材や施設を最大限に利用した特色のある教育を行っており、県内では広く認知され信頼されている。

女性会館を訪れたのは常葉高校の1年生の学年主任と養護教諭で、9月から開講した女性会館の「第12期女性カレッジ」のチラシを見て、「このようなプログラムをぜひ当校の生徒にも受けさせたい」とのことであった（図1・表1）。

II 実践の展開

図1 第12期アイセル女性カレッジチラシ



第12期アイセル女性カレッジ

目的：全8回の受講を通じて女性のキャリアについて考え、自分の能力に気づき、磨き、更に再就職・転職に役立つ実践的なスキルをプラスする。
また主体的に取り組み、自らのキャリアをデザインして、自分らしい生き方・働き方を実現する。

対象：女性25人（多数の場合書類選考あり）
時間：各回9：30～12：00

※本講座は失業認定における求職活動実績に該当
※一時保育あり

表1 第12期アイセル女性カレッジ カリキュラム

	タイトル	内容
1	開講式・オリエンテーション 「社会の中の女性 社会の中の私」	データを見ながら、女性を取り巻く社会、労働の現状を学ぶ
2	私の未来予想図	ライフイベントを想像しながら、未来予想図を考え、5年後の自分をイメージする
3	自己分析で、私の強み発見	好きなこと、過去の経験、時代のニーズ等から自分の強み、できることを見つける
4	これが私の進む道	興味・関心を持った仕事を分析し、ハローワーク体験を通し自分の柱になる仕事を考察
5	きらり☆と輝る自己PR	具体的な仕事の優先順位を考えてみる。応募書類等のトレンドに沿った書き方を学ぶ
6	実践！ビジネスコミュニケーション	ビジネスシーンでの話し方、アサーティブな姿勢での就職活動について学ぶ
7	いざ！アクションプラン	面接のロールプレイや自己PR1分間スピーチを体験し、今後のアクションプランを立てる
学んだことを実践するアクション期間		
8	修了式&修了スピーチ	アクションプランを発表する

常葉高校では、それぞれの進路希望にきめ細かく対応しており、伝統を守りながら、時代の求める女子校への発展を模索しているという。

1年次から特別進学コースと常葉大学進学コースの2コースを設定し、そのうち、常葉大学進学コースは、将来を見据えたキャリア教育を実践するために、総合進学、保育、看護、医療・健康の4つの系列を用意している。総合進学系列では、他の系列に比べ、漠然とした職業観を持つ生徒が多いため、総合的な学びを深められるよう内外に協力を求め連携講座を行っている。その連携講座への協力を依頼された。

常葉高校ではほとんどの生徒が進学を希望し、そのうち常葉大学への進学率は毎年50%前後であるという。その他の生徒も多くが系列の学校に進学し、卒業後も県内に就職し、県外に出る女性は少ない。将来も静岡市に留まり、静岡市の中核を担う市民となる生徒に女性会館が貢献できることは多いのではないかと。女性会館の機能を理解してもらい、社会人になってからも女性会館が身近な存在であることをイメージできるようなものにしたいと考え、協力を前提に検討することとなった。

しかし、高校生を対象にする場合、成人女性に向けた「アイセル女性カレッジ」の内容そのままの実施は難しい。まだ社会経験の少ない生徒が具体的に今後のキャリアを考えるために女性会館が関わるならば、ジェンダーの視点を持ってもらうことが欠かせないのではないかと。生徒が性別分業意識にとらわれることなく、主体的に自分の人生を考え、行動していくことを促すようなプログラムを提案したいと考えた。

訪れた学年主任は、教職に就く前に民間での就労経験があったことから、こうした女性会館の提案に「卒業後、生徒たちが生きていく上での糧になるような授業ができる可能性を感じた」という。

その後、常葉高校への授業提供について静岡市からも了解を得ることができ、2016年度の女性会館の事業計画に授業提供が正式に組み込まれた。2016年2月には「企画書」を学校側に提出。授業を引き受けるに至った経緯と目的を高校側に共有してもらった。提案内容には、ジェンダーの視点で社会を知ることの他、デートDV、メディアリテラシー、ファイナンシャルリテラシーなども盛り込んだ(表2)。

II 実践の展開

表2 2016年度常葉高校特別講座 総合文科系ライフデザイン講座プログラム

- 目的 社会経験が乏しく漠然とした将来への不安を抱きがちな女子高校生が、人生を長期的かつ広い視野で考える機会を持ち、将来、主体的に人生の選択を行うきっかけをつくる。
- 目標 将来の自分のために、今の自分ができることを考えられるようになる。最終日に、今後の高校生活の目的や目標を一人ひとり発表する。
- 対象 常葉高校総合進学コース1年生のうち総合文化系ライフデザイン講座選択者
- 時間 各回 13:20～15:10(間に10分休憩 50分×2コマ)

		テーマ	内容	講師
①	5/10	自分の可能性を考える	自分が人生の主人公となって今後の生き方を決めることができ、将来に可能性があると感じる	女性会館職員 (国家資格キャリアコンサルタント)
		社会の中の女性 社会の中の私	女性を取り巻く社会の現状をデータから読み取り、女性の生き方、働き方を考える	
②	6/14	メディアリテラシー	メディアの中にある性別役割の刷り込みなど情報の偏りを知り、情報を選別し利用する重要性を知る	女性会館館長 (元新聞記者)
		自分と相手を大切に する恋愛	親密な関係にある人と、お互いを尊重する関係の築き方を考える(デートDV防止)	女性会館職員 (産業カウンセラー)
③	9/13	ロールモデルカフェ	身近なロールモデル(2、3人)の話を聞くことにより、多様な生き方、価値観に触れる ※Jo-Shizuメンターからロールモデル派遣	メンターバンク登録者
④	10/4	女性の生き方 を考える	前回のロールモデルの生き方を振り返り、就職に加え、女性のライフイベント時の葛藤、選択について考える	女性会館職員 (国家資格キャリアコンサルタント)
⑤	11/15	自己を知る	交流分析の手法を用いて自己理解を深め、他者との関係性を考える	女性会館職員 (交流分析インストラクター)
		コミュニケーションの取り方	自分も相手も大切にしながら、自分の意見を伝える方法を学ぶ	
⑥	1/17	ビジネスマナー 基礎のキソ	社会生活の中で人間関係を築き、協力してものごとを進めるためのスキルを学ぶ	女性会館職員 (国家資格キャリアコンサルタント)
		自立のための ファイナンシャル リテラシー	将来、経済的にも精神的にも自立するために、「自分とお金」について学ぶ	女性会館副館長 (2級ファイナンシャル技能士)
⑦	2/14	これからの私 を考える	5月からの特別講座を振り返る。将来の自分のために今できることを考える	女性会館職員 (国家資格キャリアコンサルタント)
		発表	今後の高校生活をどのような目的をもって過ごすかを一人ひとり発表する	

女性会館の担当者が実施にあたり工夫したことは以下のとおり。

- ・「主体的に考え、選び、生きる」をテーマに、進路を決める前の生徒に聞いてもらいたい内容と受講後の高校生活にも役立つ内容をプログラム化。社会背景やニーズの必要性とともに常葉高校に提案した。
- ・毎回、「考える」「書く」「自分の意見を話す」ワークを入れるよう、担当する各講師に依頼した。
- ・毎回、事前にプログラムやワークの概要を常葉高校の担当教員に伝え、生徒の個別の事情に配慮した内容やグループ分けができるよう協力してもらった。
- ・最終回は生徒が将来の夢を見据えて今後の高校生活をどのように送っていくかという目標を考え、発表することにした。生徒が発表しやすいように、考えを整理するための「なりたい私になるアクションプランシート」（以下、アクションプランシート）を女性会館が作成し、発表する文章をまとめる「1分間スピーチ用原稿用紙」とともに配布した。
- ・最終回に生徒が記入したアクションプランシートは、終了後いったん回収。本人に返却する前に、生徒への理解や今後の進路指導に役立ててもらうため担任にも読んでもらった。
- ・ロールモデルゲストは、「アイセル女性カレッジ」修了生でメンターバンク登録者の2人に依頼した。
- ・女性会館図書コーナー職員がジェンダー視点をもって選書した「女子高校生に読んでほしいブックリスト」を受講した生徒だけでなく教員にも配布した。

初年度終了後、講座を振り返ってまとめた成果は以下のとおり（図2・3）。

- ・終了後に行った意識調査において、将来について母親と「よく話す」と「ときどき話す」と回答した生徒が講座実施前は併せて81.3%であったが、実施後は100%になった。父親と「よく話す」「ときどき話す」と回答した生徒は、講座実施前は併せて31.3%だったが実施後は60%に

II 実践の展開

なった。友人と「よく話す」「ときどき話す」と回答した生徒は、講座実施前は併せて37.6%だったが実施後は73.4%と大幅に増えた。

- ・仕事について「希望がある」と回答した生徒が、実施前37.5%に対して実施後73.3%とほぼ倍になった。
- ・アクションプランシートには「将来のことを前よりも考えるようになった」「女性が育児を理由に仕事をやめることが多いとわかり、今でも働き続けている母がすごいなと感じ、母に伝えた」など、自身の意識変化についての記述が目立った。
- ・最終回のアンケートには「自分だけでなく他の生徒の将来についての考えを知ることができてよかった」という感想が多くみられ、全員発表によりそれぞれの目標や思いを共有できたことへの評価が高かった。
- ・高校の教務主任、担当教員からは「受講した生徒のキャリアについての考え方に成長がみられた」という感想をもらった。

常葉高校へのライフデザイン講座は毎年、高校の担当教員とも振り返りを行い、改善点を協議しつつ汎用性のあるプログラムづくりを目指している。2017年度には、初年度にはできなかった「リプロダクティブヘルス&ライツ」「アサーティブコミュニケーション」を入れた。2019年度は、「第15期アイセル女性カレッジ」（2018年度）の受講生がグループワークで作成した『働く女子たちの人生すごろく』を利用して、働く女性が「結婚」「出産」「マミートラック」「転職」などをどのように乗り越えていくか疑似体験してもらった。今年度は、コロナ禍の影響もあり短縮バージョンになっているが、生徒が女性会館に来館してもらう回を設けた。図書コーナーツアーを行い、その後メディアリテラシーを学ぶなど、プログラムを工夫している。

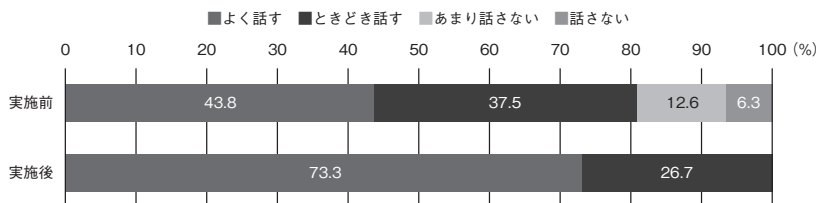
本事例の場合、教育目標の共有、ジェンダー課題への理解等、常葉高校と女性会館との密接な連携があって実現したと考えられる。また、初年度は女性会館の職員がさまざまな専門分野の有資格者だったことからすべての回の講師を交代で務めた。ジェンダー視点の入ったプログラム作成や次年度の改

善に有効だった。初年度以降は「アイセル女性カレッジ」の修了生や「Jo-Shizuメンターバンク」の登録者の中から、スクールカウンセラー、看護師、保健師、アサーティブジャパン認定講師として働く女性にも講師を依頼し、ロールモデルも務めてもらっている。

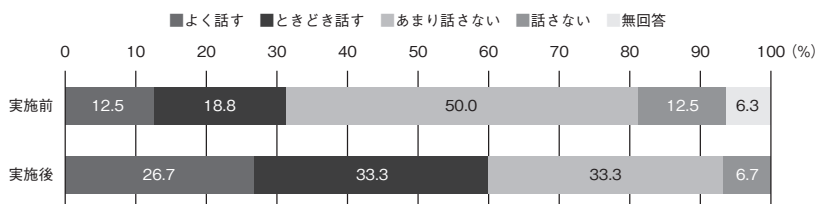
課題として残っているのは、この取組の成果を測る指標づくりである。高校側とも協議し、早急に確定したい。

図2 将来についての相談

将来についての相談（母親）



将来についての相談（父親）



将来についての相談（友人）

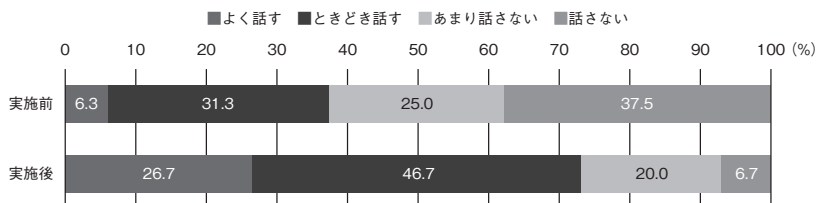


図3 将来の希望

仕事の希望

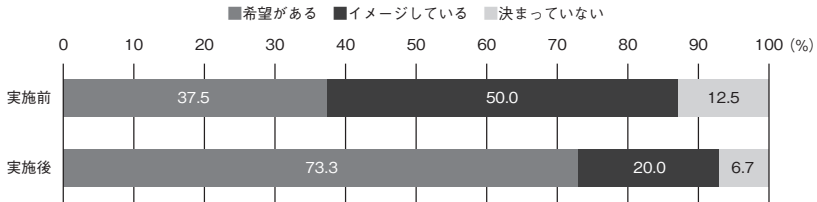
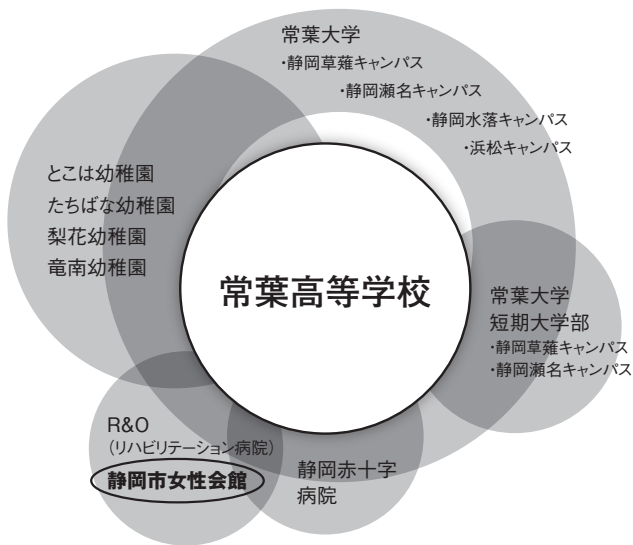


図4 常葉大学や外部教育機関との連携教育 常葉高等学校提供



6 今後の課題

国の第4次男女共同参画行動計画では、第10分野「教育・メディア等を通じた意識改革、理解の促進」の「3 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」の具体的な取組として、イに「①子供の頃から男女共同参画の視点に立ち、ライフプランニングを踏まえた総合的なキャリア教育を推進する」とある。

女性会館が行ってきた男女共同参画の視点に立ったキャリア教育の提供は、第4次男女共同参画行動計画に沿っていたと言える。

さらに現在策定中の第5次男女共同参画行動計画には、第10分野「教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革、理解の促進」の「1 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」の具体的な取組として、イに「①初等中等教育において、男女共同参画の重要性についての指導を行うよう、男女共同参画センターとも連携し、教育委員会を通じて各学校の取組を促す」「③男女共同参画センター等の講師派遣や講座の開催など、学校教育や社会教育において、教職員以外による多様な学習機会を提供する」とあり、教育分野で男女共同参画センターとの連携・協力が明記されている。

教育分野ではジェンダー平等は進んでいると考えられがちであるが、実際に教育関係者と話し、現場を訪ねると、その壁は厚くジェンダー主流化の認識は充分ではない。また、女性会館はこれまでも積極的に学校教育や社会教育にアプローチし、多様な学習の機会提供や実践を試みてきたが、地域により根づいていると思われがちな公立学校において、地域の社会資源との連携・協力が消極的な傾向が見受けられる。

現在、国や静岡市の取り組むSDGs(持続可能な開発目標)には17の目標(ゴール)がある。独自の方法により、各国が2030年までに各目標を達成するために移動する必要のある距離を評価する「SDGターゲットまでの距離の測定 2019年版：OECD諸国の現状評価」によれば、日本が2030年までに達成し

II 実践の展開

たいターゲットには達成されたものや達成が近いものも多いが、最も進んでおらず達成から遠いものは「ジェンダー平等」であることが明らかになった。

次代を担う若い世代のために、女性会館が学校や地域の社会資源と連携・協力できることは多い。ジェンダー平等実現のために今後も高校生等の若い世代に向けた事業に積極的に取り組んでいきたい（表3）。

表3 静岡市女性会館の高校生・大学生等対象事業一覧

年度	会場	タイトル	受講者数
2008	静岡県立大学短期大学部	ドラマ「ラスト・フレンズ」から考えるデートDV	82人
	静岡市女性会館	伝えるチカラでステキ女子 ※協働講座	28人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	12人
2009	私立英和学院大学	幸せ恋愛の法則	58人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	12人
2010	国立静岡大学	学生のための幸せ恋愛力UP講座	48人
	静岡県立大学	私は悪くない！虐待・DVを乗り越えて＋護身術	27人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	9人
2011	国立静岡大学	学生のための幸せ恋愛力UP講座	71人
	静岡県立大学	私は悪くない！虐待・DVを乗り越えて＋護身術	21人
	静岡市立清水看護学校	私は悪くない！虐待・DVを乗り越えて	73人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	4人
2012	静岡県立大学	学生のためのハッピー恋愛論	92人
	静岡市立清水看護学校	私は悪くない！虐待・DVを乗り越えて＋護身術	34人
	静岡県立大学	私は悪くない！虐待・DVを乗り越えて＋護身術	22人
	静岡市立静岡看護学校	私は悪くない！虐待・DVを乗り越えて	85人
	静岡市女性会館	よくわかる性同一性障害	44人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	9人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
静岡県立大学	学生のための恋愛基礎レッスン	100人	

第5章 女性関連施設の立場から高校生等のキャリア形成を支援する取組

年度	会場	タイトル	受講者数
2013	静岡市女性会館	広がる学習支援の輪～子どもの貧困～ ※協働講座	85人
	静岡県立大学	プレ就活セミナー ～これからの私、なりたい自分～	126人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	7人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
2014	静岡県立城北高校	高校生のためのハッピー恋愛論	338人
	静岡県立中央高校	15歳から学ぶ「働く時の完全装備」	74人
	私立常葉大学	仕事、結婚、出産、女子大生のためのライフ プランニング講座	20人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	13人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
2015	静岡県立科学技術高校	イマドキ高校生のリアル恋愛論	360人
	静岡県立大学	Jo-shizu メンターカフェ@県立大学	128人
	私立英和女学院高校	Jo-shizu メンターカフェ@英和女学院高校	78人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	12人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
2016	静岡市立高校	デートDV防止講座	286人
	静岡商業高校	デートDV防止講座	818人
	静岡県立大学	大学生のためのメンターカフェ キャリア形成とジェンダー	116人
	静岡市女性会館	卒論発表会@アイセル21	発表6人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	4人
	私立常葉高校	女子高校生のためのライフキャリアデザイン	のべ162人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
2017	静岡県立大学	大学生のためのメンターカフェ キャリア形成とジェンダー	108人
	私立常葉高校	女子高校生のためのライフキャリアデザイン	のべ184人
	静岡県立清水西高校	お互いの心と体を尊重しよう	697人
	静岡市女性会館	卒論応援プロジェクト	発表3人

II 実践の展開

年度	会場	タイトル	受講者数
2017	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	10人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
2018	静岡県立大学	大学生のためのメンターカフェ キャリア形成とジェンダー	103人
	私立常葉高校	女子高校生のためのライフキャリアデザイン	のべ162人
	静岡県立静岡西高校	お互いの心と体を尊重しよう	619人
	静岡市女性会館	卒論応援プロジェクト	発表9人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	14人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
	静岡市女性会館	パープルリボンダンスフェス	2団体38人
2019	静岡県立駿河総合高校	お互いの心と体を尊重しよう	271人
	私立常葉高校	女子高校生のためのライフキャリアデザイン	のべ281人
	静岡県立大学	大学生のためのメンターカフェ キャリア形成とジェンダー	150人
	静岡市女性会館	卒論応援プロジェクト	発表7人
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	6人
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—
	静岡市女性会館	パープルリボンダンスフェス	5団体84人
2020	静岡市女性会館	学生のための夏の自習室開放	13人
	私立聖光学院高等部	お互いの心と体を尊重しよう	実施中 または 今後実施
	私立常葉高校	女子高校生のためのライフキャリアデザイン	
	静岡市女性会館	職場体験、インターンシップの受け入れ	
	静岡県立大学	大学生のためのメンターカフェ キャリア形成とジェンダー	—
	静岡市女性会館	宿題カフェ (静岡市学習支援ネットワークの活動支援)	—

(まつした・みつえ (特非) 男女共同参画フォーラムしずおか代表理事)